

## 関連イベント

<p>WORKSHOP <b>参加無料</b> <b>申込不要</b></p> <h3>自然観察ワークショップ</h3> <p>日程：2022年10月30日(日) 時間：10:00～15:00 (時間中いつでも参加可、所要時間目安30分程度) 集合場所：ハイライトツアー拠点内</p> <hr/> <p>園内で見つけた生物をスケッチして、マップを作りましょう！ 石橋文化センターは久留米市都市部にできた自然豊かな場所です。 白鳥をはじめ、トカゲ、魚、カニ、サギ、カモなど、たくさんの動物が生息しています。あなたの見つけた生物を地図に貼りだして、石橋文化センターの生態系を観察してみましょう。 (現地では付箋とマーカーを準備しておりますが、使用したい画材があれば持ち込みも大歓迎です！)</p>	<p>TOUR <b>参加無料</b> <b>申込不要</b></p> <h3>石橋文化センターガイドツアー</h3> <p>日程：2022年10月29日(土) 時間：14:00～15:00 集合場所：ハイライトツアー拠点前</p> <hr/> <p>マップを作成した学生が案内人となり、石橋文化センター園内を周遊するツアーを行います。66年の歴史を持つ石橋文化センターの中で起こった出来事やその産物など、マップの内容を基に歩きながらご紹介します。 普段から石橋文化センターを利用している方や初めて訪れる方も楽しめるツアーですので、ぜひご参加ください。</p>	<p>TOUR <b>参加無料</b> <b>申込不要</b></p> <h3>石橋文化センター思い出ツアー</h3> <p>日程：2022年11月3日(木・祝) 時間：14:00～16:00 集合場所：ハイライトツアー拠点前</p> <hr/> <p>園内で過ごした思い出や発見したもの、気づいたことなどを共有し、対象となる場所やモノに名前(愛称)を付けていくツアーです。付けた名前はハイライトツアー拠点内にある地図に付箋で書き出し、新たな名称が載った石橋文化センターの地図を作成します。あなたが園内を過ごした時間や思い出から、石橋文化センターの新しい名所を作ってみませんか。</p>
--	--	---

※ワークショップやツアーは悪天候の際中止となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## インタビュー映像の展示

石橋文化センターの来園者や職員に学生がインタビューを行いました。園内での思い出やお気に入りの場所など、石橋文化センターの記憶や記録にまつわる個人のエピソードをアートフェスティバル期間中、ハイライトツアー拠点内にてご視聴いただけます。  
※月曜日は石橋文化センターが休館日のため見られません。

## 園内のQRコードについて

園内にあるQRコードを読み込むと、マップの番号に対応する箇所の説明を音声で聞くことができます。  
※園内にはマップ番号以外の箇所にも数点QRコードを設置しています。

**1**

**iPhone**  
アイフォン



スマートフォンのカメラのアプリを起動します

**2**



カメラ画面でQRコードを映します

**3**



画面上にリンク先が表示されますのでタッチしてください

**1**

**Android**  
アンドロイド



スマートフォンのカメラのアプリを起動します

**2**



[その他]をタップします  
[その他]がない場合は、[カメラ]のあたりを左にスワイプしてスクロールしてください

**3**



[レンズ]をタップします  
このあと、Googleレンズの説明が表示された場合は[OK]をタップします

**4**



カメラ画面でQRコードを映します

**5**



画面上にリンク先が表示されますのでタッチしてください

※機種によっては読み取れない場合があります。QRコード読み取り専用のアプリをご利用ください。



アーティスト紹介

## SECOND PLANET

北九州市在住の外田久雄(1959年～)と宮川敬一(1961年～)によって1994年に結成されたアーティストユニット。結成以来、様々な領域の人々とコラボレーションを行っており、映像、写真、音、インタビュー、テキスト、インターネット、絵画などを使用してインスタレーション、映像作品、オンラインプロジェクト等を制作している。

# ISHIBASHI CULTURAL CENTER hi-lite TOUR

石橋文化センター ハイライト ツアー

2022.10.29(土)～11.20(日) 10:00-17:00 ※期間中の金・土・日曜・祝日は園内ライトアップのため20:00まで

アーティストのSECOND PLANETが提供したアイデアを基に、佐賀大学生たちが石橋文化センターの新たなマップを作りました。普段は風景に溶け込んで見落としてしまいそうな場所やモノを各々の視点から調査しています。園内にあるQRコードもあわせて、石橋文化センターの記憶や記録をめぐる旅をお楽しみください。

- ① ロゴ
- ② みどりのリズム
- ③ ベリカン噴水
- ④ 赤レンガ
- ⑤ 石橋正二郎記念館
- ⑥ 日時計
- ⑦ 久留米市美術館
- ⑧ 小便小僧
- ⑨ プリンセス・ミチコ
- ⑩ 芝生上の飛込台
- ⑪ イチョウの木
- ⑫ 白鳥の池
- ⑬ 歴史を刻む長椅子
- ⑭ 憩の森のトイレ
- ⑮ 花や緑と親しむベンチ
- ⑯ 表示板
- ⑰ 花園
- ⑱ 芝と紅葉
- ⑲ 石積み
- ⑳ ツバキ園
- ㉑ 配電盤
- ㉒ シジミ池
- ㉓ 親水広場
- ㉔ 水飲み場
- ㉕ 園内事務所
- ㉖ 睡蓮の池
- ㉗ 日本庭園
- ㉘ スピーカー
- ㉙ カップ噴水群
- ㉚ ハート型植物
- ㉛ 街灯
- ㉜ 石のオブジェ
- ㉝ 円盤投げ像
- ㉞ ハンガーストーンII
- ㉟ 久留米ライオネスクラブの石碑

### 園内にある

### QRコードの使い方は

### 裏面をご覧ください





## ① ロゴ

正門の右側にある赤いサインは、石橋文化センターの正式なロゴである。このロゴにはISHIBASHI CULTURAL CENTERの頭文字 ICCがレタリングされており、2016年の久留米市美術館開館の際に刷新された。デザインを担当したのは株式会社アックスで、「むすぶ」というテーマを元に制作された。

## ② みどりのリズム

青銅像《みどりのリズム》は清水多嘉示の代表作であり、近代日本彫刻の構造的彫刻において重要な作品とされている。1983年にはこの作品の周辺にツツジが植栽された。《みどりのリズム》は石橋文化センター以外に、上野公園、岡山後楽園、八ヶ岳美術館、岡谷東高校、御堂筋など、全国数か所に点在する。

## ③ ベリカン噴水

東京藝術大学名誉教授で彫刻家の山本豊市による作品。1977年まではプールとして使用された。キリスト教でベリカンは慈愛と静けさの象徴とされているが、実際は口でなんでも試す習慣があるため意外と凶暴だ。もちろんこの彫刻は何も食べないので、石橋文化センターのマスコットとして利用者を見守っている。



### ④ 赤レンガ

噴水の周りがある赤レンガは、開園当初から配置されている。一般的にレンガは赤褐色のイメージが強いが、白いレンガも存在する。レンガの原料や温度は陶器とほとんど同じだが、鉄分量および酸素量などの違いによって、陶器とは質の違うものに仕上がる。

## ⑤ 石橋正二郎記念館

現在石橋正二郎記念館が位置する場所には、開園当初より50m プールが設置されていた。その跡地に1996年石橋美術館別館が開館し、開園60周年を迎えた2016年には石橋正二郎記念館として改修された。この看板は石橋正二郎記念館が開館した際に設置されたが、石板に金属製のパネルを貼ったデザインは、以前の看板のデザインから継承されている。

## ⑥ 日時計

この日時計は2代目であり、初代のは開園当初から美術館前に置かれていた。初代のは2代目とは異なり木製だった。現在の2代目は、社会奉仕団体「久留米ロータリークラブ」から寄贈された。この日時計は「垂直式日時計」と言い、太陽の日周運動を利用して時間を観測している。

## ⑦ 久留米市美術館

石橋美術館（現久留米市美術館）は石橋文化センターが開園した1956年に開館した。この美術館は石橋正二郎により建設・寄贈されたが、2016年10月に運営が石橋財団から久留米市に移行され、久留米市美術館として再出発した。現在は青木繁と坂本繁二郎など、久留米出身の洋画家の作品をはじめ、九州の近代洋画を中心に収集している。



### ⑧ 小便小僧

ベリカン噴水の近くにある小便小僧は、寒暖差や子どもが投げた石によるひび割れを理由に今年の7月に新調された4代目の小便小僧である。小便小僧のオリジナルは1619年に制作され、ベルギーのブリュッセル市内で屋外に展示されてきたが、こちらも盗難や破壊などの防止のため1960年代にレプリカの展示となった。

## ⑨ プリンセス・ミチコ

1968年に皇太子殿下ご夫妻が石橋文化センター行啓の折にこの苗を植えてお迎えしたところ、大変お喜びになられたという逸話のあるバラである。その名前はイギリスの育種家ディクソンが、当時皇太子妃だった美智子上皇后陛下下に捧げられたことに由来している。作出年は1966年。

## ⑩ 芝生上の飛込台

かつてこの場所には日本水泳連盟の公認を受けた50mのプールがあり、数多くの大会が行われ、オリンピックメダリストの石本隆や田中聡子が世界新記録や日本新記録を出している。また、競技用プールに加えて広い観客席もあったことから、プールサイドでは盆踊り大会やアマチュアバンドによるライブも開催された。その後、1993年に撤去・解体された。



## ⑪ イチョウの木

美術館の横にあるイチョウには45年以上もの歴史があり、池沿いに並んだイチョウは約30～35年前に植樹された。このイチョウには現在も伸びた枝や枯れた枝の剪定などが行われている。イチョウの実はギンナンと呼ばれており、食材や漢方薬などに用いられるが、中毒を起こす場合があるので口にする際には注意が必要だ。

## ⑫ 白鳥の池

白鳥の池にはコブハクチョウが生息している。石橋文化センターの白鳥は、1957年に飼育が開始され、1962年には三年連続ヒナが誕生したことが西日本新聞に載った。また、池は筒川と繋がっているため、大雨の時には魚やザリガニなどが逆流に乗って池に回遊することもある。11月頃にはモクズガニやカモの姿も見られる。

## ⑬ 歴史を刻む長椅子

石橋美術館別館完成時に設置された後、石橋正二郎記念館としてリニューアルされる際に現在の場所に移設された。ベンチがある場所は憩の森や坂本繁二郎アトリエなどに続く道となっており、カラスなどの鳥がいる他、周囲には白鳥が住む池やスイレン・ハナシヨウブなどの花を鑑賞することができる。

## ⑭ 憩の森のトイレ

このトイレは1990年に造られた。共同ホール側にあるトイレとは異なりレンガ調に造られているのが特徴だ。トイレの外にある花の絵が描かれたタイルは30年以上前、トイレの建設に合わせ久留米市内の養護学校（現在の特別支援学校）に通っていた生徒たちにより制作されたものである。

## ⑮ 花や緑と親しむベンチ

このベンチがある憩の森は、久留米市の植木生産者が全国に広めたとされるクルメツツジをはじめ、季節ごとに香り豊かな植物を親しむことができる場所である。また、「香り」をテーマにした空間づくり等が評価され2009年度に「みどり香るまちづくり」企画コンテストで環境大臣賞を受賞した。

## ⑯ 表示板

芝の下に設置した表示版は、白鳥の池と50m プール跡の間にあるものと同じ様式である。表示版は情報を人に伝える役割があるが、表示版自体が名所になることもある。自然景観を損なわないよう、あえて目立たないよう置く場合もあり、石橋文化センターのような美しい自然景観を保つ施設では様々な表示版を複合的に置くことで目立たないよう計算し配置している。

## ⑰ 花園

ここは花と水辺のヒーリングゾーンに位置しており、季節ごとにアジサイなどの多種多様な花が咲き誇る。アジサイは日本古来の植物だが、ドイツの医師で博物学者のシーボルトが長崎を訪れた際にその花の美しさに惹かれ、恋人のお滝（楠本滝）にちなんで「オタクサ」という名をつけ、海外で紹介したといわれている。



## ⑱ 芝と紅葉

芝生では広さを活かして過去に様々な活動が行われてきた。特に2016年に石橋文化センターのアートプロジェクトが始まってからは、学生や子供たち、アーティストの作品展示の場として活用されている。また、付近にはウメやモミジの木が生えており、秋には紅葉を楽しむことができる。

## ⑲ 石積み

この石垣のように石を積み上げて築造する技法を石積みという。石積みにはいくつもの様式が存在し、レンガのように各段の高さを揃えて積む布積（ぬのづみ）や、様々な大きさの石を組み合わせる乱積（らんづみ）などが挙げられる。また、この石垣は土砂が崩れるのを防ぐ役割を担っており、このような構造物は擁壁（ようへき）と呼ばれる。

## ⑳ ツバキ園

園内のツバキは1970年の日本庭園造成時に、久留米観賞植物研究会の椿部会から寄贈されたものを中心に40品種1260株が植栽された。その後、1990年代に坂本アトリエ西側に久留米産のツバキを中心に110品種110株を植栽・整備した。更に、2000年代に130品種130株を追加し国際優秀つばき園に認定された。現在、園内には260品種1500株のツバキを植栽している。

## ㉑ 配電盤

文化センターでは様々なイベントを開催し、「バラフェア」「SAKURAまつり」など、夜のライトアップも含めて、屋外で開催するイベントも多い。アトリエ付近では、近くの建築物から距離があるため、電源ボックスを配置し、配電している。この電源ボックスはライトアップや、出店がある際に使用する。

## ㉒ シジミ池

文化センター内にはいくつもの池があるが、この小さな池にはシジミが生息している。自然の景色を凝縮して削られる日本庭園と池には深い関わりがあり、飛鳥・奈良時代にはすでに池を用いた庭園が造られていた。最初は舟を浮かべるために使われていたが、鎌倉時代には池の周りを歩いたり、部屋から座って鑑賞する様式が普及した。

## ㉓ 親水広場

親水広場ではポンプで水が吸い上げられ、水の階段が形成されている。水流を速くへ流すことで「川」を表現し、岩の数を場所によって変えることで上流から下流にかけての変化を感じとれる。また、ここでは四季を移ろう紅葉も見られるため、春夏には新緑の楽しさを、秋には赤に染まる紅葉の美しさを体感できる。

## ㉔ 水飲み場

水飲み場は園内作業者が植物へ散水したり、来園者が給水のために使用している。このように水道水が飲料水として使用できる国は現在日本を含めて9カ国しかないようだ。また、この石橋文化センターでは噴水と水飲み場は全く違う用途で使われているが、パリの街では「フォンテーヌ・ヴァラス」という噴水が市民の水飲み場として設置されている。

## ㉕ 園内事務所

この事務所は1989年頃に完成した。建物の1階は道具置き場となっており、2階は事務所やスタッフの休憩所として使われている。石橋文化センターには、花壇のある場所が合計1000平米以上あり、バラが約400品種2600株、その他にもツツジやツバキなど多種多様な花が見られる。そのため、園内のスタッフは毎日のように花壇の管理や池の清掃を行っている。

## ㉖ 睡蓮の池

この場所は「睡蓮とバラの庭」と呼ばれており、季節によって様々な景色を見ることができる。バラの庭は、1971年の日本庭園第2期工事の際に完成した。睡蓮の池に関しては1964年までに完成していたが、その後改修工事の際に池の場所を現在の位置に移した。

## ㉗ 日本庭園

この庭園は石橋正二郎が自らデザインした。「小高い場所で、がけなどあるので、これを削ったあと木を植えたい。水も取り入れたい。白鳥の池を拡張して、新庭園とつなぎ、水と樹木でいっぱい庭園にする。」という構想から、東京から造園会社柴田集花園を招いて施工した。また、1970年には工事中に弥生式土器が発掘された。

## ㉘ スピーカー

スピーカーは今から約35年前設置され、2003年3月の園内放送設備改修を経て現在に至るまで、使用されているらしい。現在はイベントの案内や迷子の案内、車の移動案内などで使用していることが多い。また、園内放送用の音響装置は非常用の装置に接続されており、緊急時には業務放送を停止し、非常用放送を優先して放送することができる。



## ㉙ カップ噴水群

この噴水は、1990年に世界つつじ園として作られた庭園の一部である。噴水のモチーフになっている河童には、「水天宮と九千坊河童」「田主丸の巨瀬入道」「北野のカップの手」など久留米市で有名な伝承が残されており、九州の大河として知られる筑後川をはじめ、豊かな水を利用し暮らす久留米の人々の生活を象徴している。

## ㉚ ハート型植物

木の陰に隠れたこのハート型のオブジェは、園内の職員が2015年前後に作成したものである。オブジェにつるバラの「アンジェラ」を這わせているのが特徴だ。このオブジェの周りに植えているのはモダン・ローズ類の「フロリバンダ」というバラであり、ラテン語で「多くの開花」という意味がある。

## ㉛ 街灯

読書と木陰のくつろぎゾーンにぴったりな緑色の街灯で、赤茶色のレンガとの補色で目をひく。この青銅のような色味の街灯があることで一気に景観がヨーロッパ風になる。デザインが西洋のガス灯風になっているが、日本において西洋式ガス灯が用いられるようになったのは明治5年、横浜に設置されたものが最初である。



### ㉜ 石のオブジェ

このオブジェのように、石を組み合わせたものは世界中のさまざまな地域で作られてきた。なかでも有名なのがイギリスのストーンヘンジであり、これは紀元前3000～前1500年頃に造営されたと考えられている。また、石のオブジェと宗教には深い関わりがあることも多く、日本でも神の宿る巨石である磐座（いわくら）を各地で信仰してきた。

## ㉝ 円盤投げ像

図書館横にある円盤投げ像は1966年開園10周年を記念して石橋財団より寄贈された像である。古代ギリシャ・ミュロンの像のレプリカであり、この像は古代オリンピックの象徴とされている。図書館の近くにスポーツを連想させる像を設置したのは、現在の久留米市立中央図書館の場所には1977年まで体育館と遊園地があったためではないかと推察できる。

## ㉞ ハンガーストーンⅡ

《ハンガーストーンⅡ》は久留米出身の彫刻家、毛利陽出春の作品である。彼の作品からは肌合いの自然感や温もり、柔らかさが感じられる。戦後アメリカでは、公共空間に芸術作品を設置する「パブリックアート」という言葉が誕生したが、日本では1990年以前に「野外彫刻」などの名で呼ばれていたこともある。



## ㉟ 久留米ライオネスクラブの石碑

この石碑は、社会奉仕団体「ライオンズクラブ」の協力者として活動する女性主体の団体、「ライオネスクラブ」によって建てられた。「ライオンズクラブ」は世界三大奉仕団体に数えられており、世界中で140万人もの会員が活動している。久留米市でも1956年に九州で2番目の「ライオンズクラブ」が誕生して以降活動を続けている。